

運動会・体育祭等での対策

I 計画段階での取組

- 1 暑さ指数（WBGT）を把握し、競技内容や練習内容、練習時間等を変更したり、休憩を入れたりすることができるよう、児童生徒等の体力や発達段階を考慮し、健康を優先した無理のない計画を立てる。（体を暑さに慣らすための指導計画、暑い時間帯の回避、活動時間の短縮）
- 2 学校として実施する熱中症対策について検討、確認する。（テント、ミストシャワーの設置等）
- 3 体調不良者の対応について、教職員の配置と情報の伝達方法の共通理解を図る。
- 4 当日、体調不良者が多数発生することを想定し、保健室以外にも空調の効いた教室等の確保について確認する。
- 5 児童生徒等が自ら熱中症の危険を予測し、安全確保の行動をとることができるように指導する。
- 6 熱中症による救急搬送があった際の連絡体制について確認する。

II 前日までの取組

- 1 暑さ指数（WBGT）を把握し、校内に広く周知するとともに、全体練習・学年練習時においても、環境条件によっては、内容を変更するなど、柔軟な対応を行う。
- 2 学校から通信等をとおして、熱中症や体調管理、水分補給の大切さについて児童生徒、保護者へ周知する。
- 3 暑さ指数を基準とした運動・行動の指針を設定し、基本的な熱中症予防について全教職員間で共通理解を図るとともに、必要に応じて保護者に通知する。

III 当日の取組

- 1 暑さ指数（WBGT）を把握し、プログラムや競技内容の変更について柔軟な対応を行う。（激しい運動や持久走などを避ける）
- 2 健康観察を入念に行うとともに、児童生徒等が体調に異変を感じたら、速やかに申し出るよう指導し、無理をさせない。
- 3 競技・演技中の児童生徒等だけでなく、応援席等で控えている児童生徒等の様子を観察し、体調不良等の児童生徒等をいち早く発見し、対処する。
- 4 設定した給水タイムには、確実に給水させるようにし、児童生徒等の給水状況を把握する。（確実な見届け）